

新興国レポート

インドの9月の消費者物価は落ち着いた動き

原油価格高騰等によるインフレ懸念を後退させる可能性も

- ✓ インドの9月の消費者物価（C P I）は前年同月比+3.8%と、8月に続き落ち着いた動きを示した。C P Iの約45%を構成する食料品・飲料が低水準で推移したこと等が要因と見られる。
- ✓ C P Iの落ち着いた動きはインドルピー安や原油価格高騰によるインフレ懸念を後退させ、底値模索を続けるインド株式の底打ちタイミングを速めさせる可能性も。

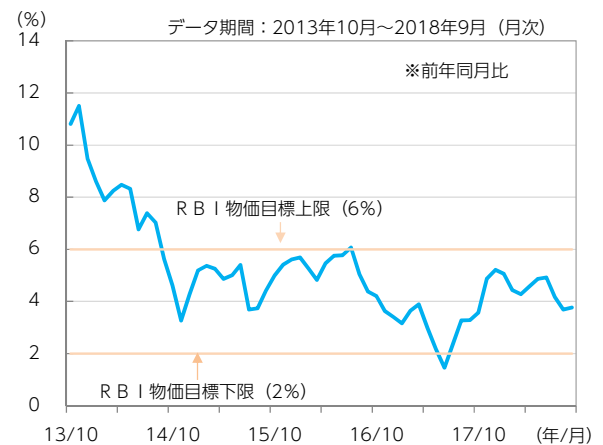
● インド統計局が10月12日に発表した9月の消費者物価（C P I）は前年同月比+3.8%と、前月の+3.7%から小幅の上昇に留まり、市場の事前予想+4.2%を下回りました。インド準備銀行（R B I）の物価目標の中心値である4%（下限2%～上限6%）を2018年7月まで9ヵ月連続で上回って推移していたC P Iは、8月に続いて9月も4%を下回り、落ち着いた動きを示しました（図表1）。

● 9月はC P Iの約45%を構成する食料品・飲料がモンスーン期（6～9月頃）に降雨に恵まれたこと等もあり、同+1.1%と前月の同+0.8%に続いて低水準で推移。インドルピー安や国内需要の約8割を輸入に頼る原油価格の高騰による影響を相殺した模様です。C P Iの約7%を構成する燃料は同+8.5%と7月以降3ヵ月連続で8%を上回って推移しています（図表2）。尚、変動の大きい食料品と燃料を除く9月のコアC P Iは同+5.8%と6月の+6.4%を直近ピークに低下を続けています。

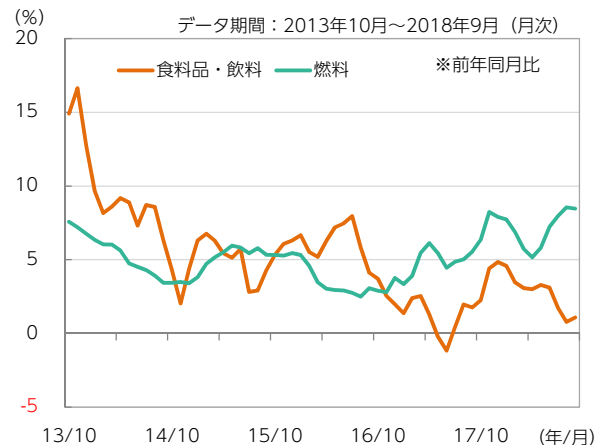
● 新興国経済の先行き懸念等からインドルピー（対ドル）は9月末にかけ、年初比で13%下落。またWT I原油先物価格は米国とイランの関係悪化等から21%上昇しています。その影響が輸入物価の上昇を通じて物価全般に波及し、インド経済がインフレに陥るとの懸念が高まり、10月に入ってもインドルピー安が続きました。また、8月28日に38,896ポイントと終値ベースで史上最高値をつけたインド株式（S E N S E X指数）は、10月11日にかけてその高値から13%下落しました（図表3）。

● 9月のC P Iが市場の予想及びR B Iの物価目標の中心値を下回ったことは、下値模索を続けるインド株式が底打ちするタイミングを速める可能性があると考えます。

図表1：インドC P I



図表2：インドの食料品・飲料及び燃料の変動



図表3：SENSEX指数とインドルピー（対ドル）



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>